

水田天満宮神幸祭【みずたてんまんぐうじんこうさい】



開催場所

筑後市大字水田

水田天満宮

開催日

10月25日

指定

福岡県指定無形民俗文化財

【芸能の概要】

水田天満宮の稚児風流は、天満宮の神幸祭に奉納する行事である。単に、風流とも、ドンカンカン（ドンキャンキャン）ともいう。太鼓や鉦の音に合わせて子供が囃子を奏でて、町を練り歩くところからそう呼ばれる。稚児は14名で、4、5歳から12歳位までが参加。シャグマ、陣羽織、野袴、白足袋、草鞋、手甲脚絆のいでたちで、小太鼓、鉦を持ち大太鼓の音、掛け声に合わせて、威勢良く風流踊りを神殿や町内で奉納する。

【芸能の特徴】

神幸祭自体は1250（建長2）年以前に成立していた。稚児風流の由来は定かでないが、代々の師匠からの口伝と稚児の掛け声の「ハーエンヤーアイ」などから、室町時代に流行した田楽猿楽等の影響が推察されている。神社の古い太鼓には慶安、寛文、万延などの年号が見られ、肩衣も1857（安政4）年のものが現存している。また、稚児の先導する神輿行列は、神社が保管する寛文年間（1661～1673）の資料と絵巻物に既に行われていたことが記されており、神輿にも同年代の墨書がある。

1864（元治元）年の「水田天神神幸絵巻」には、現在と変わらぬ神幸祭と稚児風流の行幸が描かれている。大太鼓に1667（寛文7）年の銘、1826（文政9）年張替の記録、大太鼓に1860（萬延元）年の銘、肩衣反（てくり）に1857（安政4）年がある。

【使用する祭具・道具など】

小太鼓は締め太鼓を胸に付ける。五色の神幣を飾った大太鼓は、花ふとんで飾られ、2名の男性によって担がれて行く。

・アクセス

JR 羽犬塚駅から、水田天満宮まで徒歩約20分

・周辺の観光

山しか、光明寺の久重の塔、石大山古墳、船小屋鋼泉場
熊野神社鬼の修正会（1月）
船小屋温泉花火大会（8月）
久富盆綱引き（8月）
ちっこ祭（9月）

・近くの特産品

い草、梨、いちご、久留米餅

